

令和元年度 会派調査研究報告書

(視察先1か所につき1枚)

会派名	葎 真 ク ラ ブ					
出席者	田原一孝	一木長博	宮川文憲	内藤正之	木内吉英	浅川裕康
事業名	タブレット導入について					
事業区分	①研究研修			②調査		

1. 葎崎市での課題と研修・調査の目的

葎崎市議会においては、議会改革の一環として、かねてより、議場におけるペーパーレス化の推進について議論が重ねられてきた。昨年度、議会内に「電子化推進検討会」が立ち上がり、葎崎市行政との間で議場の電子化、ペーパーレス化について検討を進めている。

先進議会を視察し、タブレット化した経緯、手続き内容、手続き期間、経費について、さらには運用に当たって見えてきた具体的課題や実際の削減度合いなど研修し、本市議会への導入にあたっての参考としたい。

2. 実施概要

実施日時	令和元年5月20日(月)	13:30	～	15:30
視察先	埼玉県飯能市議会			
担当部局	埼玉県飯能市議会事務局 議会総務課			

報告内容	<p>飯能市は埼玉県の南西部に位置し、東は狭山市と入間市、南は東京都青梅市と奥多摩町、西は秩父市と横瀬町、北はときがわ町、越生町、毛呂山町、日高市に接している。昭和29年に県下9番目の市制を施行、都心から約50km圏内に位置し、交通アクセスも良好な環境にありながら、緑と清流という自然に恵まれている。こうしたことを背景に、平成17年4月1日に「森林文化都市」を宣言し、自然と都市機能が調和した、暮らしやすい都市を目指したまちづくりに取り組んでいる。</p> <p>飯能市では、平成24年度から、総事業費391万円(単年度)でスタートした。それまでは、約50名ほどの膨大な資料を準備していたという。環境に配慮し紙使用量の削減を図ることを目的に、全議員及び執行部幹部職員全員にタブレットを配布し、ペーパーレス化を図ってきた。</p> <p>事業開始当初は、すぐに議場において運用することはせずに、全員協議会で試験的に運用することとし、順次、議会運営委員会、会派代表者会議、そして議場といった流れの中で運用拡大を図ってきた。現在は、議場において運用するに至っている。</p> <p>全員協議会から議場での運用に至るまでの期間はおおむね1年をかけたとのことであった。また、スタート当初は紙媒体との併用で運用したが、併用も2回ほどで終了し、タブレットのみでの運用に移行することができたとのことであった。</p> <p>現在は59台のタブレット端末を導入し、年間600万円ほどの事業費で運用しているとのことであった。</p> <p>成果としては、年間約10万枚の紙使用量が削減され、年間約180万円の費用が削減されている。さらに、これまで21名の議員に対してFAXを送信するのに1時間以上をかけていたところ、その時間が節約されるなど、特に議会事務局職員の労務負担が大幅に削減され、他の業務の効率化が図られたことが大きいとのことであった。</p>
------	--

1. 運営状況

視察研修は、飯能市議会の議会事務局担当者の進行のもと開会し、互いの代表者及び出席者が挨拶を交わした後、担当から、導入前の議会の状況、導入したばかりのころの運用方法、その期間、経費、運用後の削減度合いなどについて、事業の説明をいただいた。

その後の質疑にあたっては、専門的な分野に関する説明であったことから、言葉の意味内容の補足から始まり、導入以前の議会、議場の具体的状況について、特にセキュリティに関して、外部通信の可否や、議場外への持ち出しについて、さらには、使用基準といった規則についての質問、そして、実際の運用により生じたメリットやデメリット、また、運用したことで見えてきた課題など多岐にわたる質問や意見交換がなされ、担当から、詳細かつ丁寧な回答をいただくことができた。

終わりにあたり、当会派から謝辞を述べ、閉会となった。

2. 考察（これらの取り組みを蕪崎市にどう活かせるか）

現在、本市議会内に「電子化推進検討会」なる組織を立ち上げ、専門的に具体的課題に取り組んでいる状況である。本市議会においても、会議ごとに印刷する紙の量は相当数となっており、その印刷作業に係る時間や労務負担についても、相当なものとなっている。早期の改善、改革が求められている。

今回の研修で学んだことについては、「電子化推進検討会」に対して提供するなどして課題や情報の共有を図り、市行政側と歩調を合わせる中で早期のタブレット化が実現されるよう協力、提言していきたい。



感想（まとめ）
・ 市政に活かせること